

<経営研修会「知らない」と損する税の話>を開催

令和5年9月15日、農政普及課とかごしま農業経営・就農支援センターの共催で、税理士を講師とした所得税や消費税に関する研修会を開催しました。

近年の生産資材高騰など厳しい農業情勢の中、必要な税知識を身につけることで、農家が生活や貯蓄に使用できる可処分所得の向上を図ることを目的として研修会を開催しました。当日は農家17人、関係機関22人の計39人が参加しました。

税理士からは、①所得税では短期前払費用や倒産防止共済等の各種制度について、②消費税では課税方式の有利不利やインボイス制度等について解説されました。

参加者からは「知らない制度があり勉強になった」などの感想が聞かれた一方、「もっと詳しく聞きたかった」などの意見もありました。



研修会の様子

<収入保険制度を活用しましょう>

全ての農産物を対象に、自然災害による収量減少や価格低下をはじめ、農業者の経営努力では避けられない様々なリスクによる収入減少を補償します。

自然災害や病虫害、鳥獣害などで収量が下がった	市場価格が下がった	災害で作付不能になった	けがや病気で収穫ができない
倉庫が浸水して売り物にならない	取引先が倒産した	盗難や運搬中の事故があった	輸出したが為替変動で大損した

加入できる方は青色申告を行っている農業者（個人・法人）です。

- ※ 加入申請時に青色申告（簡易な方式を含む）の実績が1年分あれば加入できます。
なお、個人の方は12月まで、法人の方は事業年度の末月までが加入申込期限となっています。
- ※ 農業共済組合では税理士による青色申告の個別相談会を無料にておこなっています。
青色申告とは？インボイス制度とは？等々疑問にお答えします。

詳しくはお近くの農業共済組合にお問合せください。

普及だより

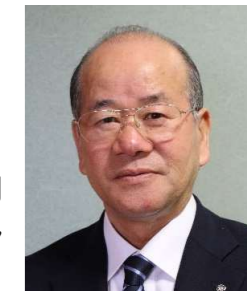
●編集発行
大隅地域振興局農林水産部農政普及課
肝属地域農業改良普及事業協議会
ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/ao01/chiiki/osumi/index.html>

鹿屋市打馬2丁目16-6
TEL: 0994-52-2142
FAX: 0994-52-2147



<新年あけましておめでとうございます>

◎肝属地域農業改良普及事業協議会 会長 宮原 順（東申良町長）



謹んで新年のお慶びを申し上げます。
昨年を振り返りますと、高病原性鳥インフルエンザの多発、ウクライナ情勢や円安等による燃油や飼料等生産資材価格の高止まり、子牛価格の急激な下落など、多くの生産者にとって厳しい1年となりました。

こうした中、昨年9月の県茶品評会深蒸し煎茶の部において、肝属地域の生産者が農林水産大臣賞を受賞するとともに、同10月に4年ぶりに開催された県ホルスタイン共進会において、当地域が大会10連覇を達成するという嬉しいニュースもありました。また、被害が拡大していたサツマイモ基腐病については、「持ち込まない」「増やさない」「残さない」の三ない対策の徹底により被害軽減が図られてきておりますが、今後とも対策の着実な実践が必要です。

当協議会では、本年も引き続き、関係機関・団体と緊密な連携を図りながら、肝属地域における農業の「稼ぐ力」の向上が図られるよう、担い手の確保・育成やスマート農業の推進、農畜産物のブランド力の向上などに取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして実り多き1年となりますよう、心よりお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。

<若手女性農業者支援>

農政普及課では、若手女性農業者のネットワークづくりや課題解決、経営参画意欲の向上に向けた研修会（年2回）・交流会（年1回）を開催しています。

<女性農業者スキルアップ講座>

令和5年7月の1回目の講座では、金融広報アドバイザーによる生活設計・家計管理の講話、NPO法人によるオンライン研修参加のためのZoomの使い方実習、昼食交流会を実施しました。

令和5年12月の2回目の講座では、県よろず支援拠点のコーディネーターによるマーケティングの講話、女性農業経営士による事例発表、昼食交流会を実施しました。



<農村女性ファームレディ交流会>

令和5年8月の交流会では、曾於市のたからべ森の学校や志布志市の畑カフェ工房Norariを視察しながら交流しました。



知って得する！技術情報！！

<サツマイモ基腐病の防除対策（持ち込まない対策）>

令和5年産のさつまいもは、ほ場に基腐病菌を「持ち込まない」「増やさない」「残さない」の三つの対策を総合的に行うことで、サツマイモ基腐病の発生を低く抑えることができました。令和6年産に向けて、継続して三つの対策に取り組む必要があります。

① 伏せ込み前の準備

- ・ビニールを被覆して地温15℃以上を確保したら、適正な土壤水分で、バスアミド微粒剤等による土壤消毒を行います。処理後直ちにビニール等で被覆し、消毒後は十分にガス抜きをしましょう。

② 健全種いもの確保と消毒

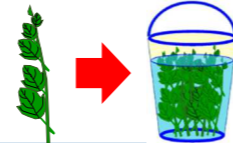
- ・蒸熱消毒処理等で健全種いものを確保しましょう。
- ・黒斑病、サツマイモ基腐病を防除するため、トップジンM水和剤に浸漬してから伏せ込みます。

③ 異常株抜き取りと持ち出し（植付まで）

- ・定期的に育苗ほを巡回し、異常株を見つけたら、速やかに種いもごと抜き取り、育苗ほの外へ！

④ 健全株からの採苗と苗消毒の徹底（植付直前）

- ・苗消毒は必ず採苗当日に行い、消毒液は使用日ごとに毎回調整しましょう！
- ・本ほへの植付前に苗全体をベンレート水和剤等に30分間全身浸漬！



知って得する！技術情報！！

<畜産編 高収量スーダングラスの栽培のすすめ>

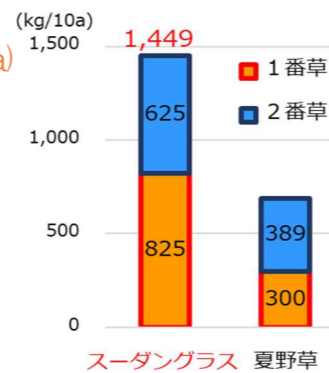
飼料等の生産資材は高騰しており、自給粗飼料の増産によるコスト低減を図るため、スーダングラスについて、オヒシバ（俗称：ホトクイ）との収量等を比較検討しました。

① 作付け概要（中部、東部及び南部の3カ所で実証ほを設置）

供試品種：ロールスイートBMR(雪印種苗) 播種日：5/23～27日 播種量：8kg/10a

② 乾物収量

1番草及び2番草の合計乾物収量は北刈に比べ2倍以上(1,449kg/10a)



③ TDN収量（1番草）を用いたコスト試算

- ・TDN乾物収量はスーダングラス552kg/10a、北刈164kg/10a。
- ・10a当たり15,560円のコスト削減が可能

(飼料をめぐる情勢 農林水産省R5.11月 TDN1kg当たり生産コストで試算)

④ スーダングラスの生産のポイント

- ・5月下旬に作付けを行うことで2番草までの収穫が可能
- ・播種量8kgにすることで、1番草が細茎となりロールバール調整が可能
- ・出穂後は茎が硬くなるため、地際からの1～2節が硬くなる前に収穫



飼料畑をフル活用して、高収量・高栄養の夏作を作付けしてみましょう！！

知って得する！技術情報！！

<野菜編 ハウスの保温性向上技術>

ハウスからの放熱には、被覆資材の隙間や破れ等から逃げる熱と被覆資材やハウス構造材を通過する熱があります。

ハウスの保温効果を高めるには被覆面に隙間を作らないことが大切です。固定被覆資材や内張カーテンの隙間を少なくし、気密性を高めることは、経費をかけずに放熱を抑制できる技術です。

ハウスの隙間や破れ等からの放熱は日頃の点検で大部分を防ぐことができますので、見つけ次第すぐに対処してハウス内の保温性を高めましょう。

<対策例>



サイド・妻の被覆状況

出入口の被覆状況

知って得する！技術情報！！

<果樹編 パッションフルーツ栽培の基本技術>

大隅半島では、マンゴー、アボカド、パインアップルなどの、熱帯・亜熱帯果樹が栽培されています。パッションフルーツは、南大隅町、肝付町、東串良町でハウス栽培されており、年々、栽培面積が増えています。ここでは、パッションフルーツの主な管理作業を紹介します。

- ① 9～10月に、購入した苗か、さし木した苗を植えます。
- ② 1～2月に、副梢を切り返して、その後、結果枝を伸ばします。結果枝は、2m程度の高さから下向けに伸ばすのが、一般的です。
- ③ 開花期（3～5月）には、絵筆を使って、花粉をめしべに人工受粉します。受粉に、クロマルハナバチを使うことも可能です。
- ④ 収穫期（5～7月）には、紫色に着色した果実が自然と落果します。ネットに落ちた果実を収穫します。
- ⑤ 収穫後には、樹を抜き取り、耕うんして次作に備えます。

年間の主な管理作業

9～10月	苗木の植え付け
1～2月	せん定
3～5月	人工受粉
5～7月	収穫
収穫終了後	伐採・伐根、耕うん



収穫期を迎えたパッションフルーツ